

職員が聞いたつぶやき

わたしたちが地域のいろいろな方のお話を聞かせていただく中で、聞こえてきた「つぶやき」をご紹介します。「つぶやき」は、どうかしたい、こうなったらいいなどの想いの現れ。地域をよくしていくための芽のようなものと思います。簡単に変えていけるものではないけれど、少しでも皆さんの幸せにつながる方法はないか、わたしたちも一緒に考えさせていただきたいと思っています。

昔の遊びや暮らしを、
子どもたちに伝えたい。

お年寄りの交流の場
が少ない。

子どもたちに、もっ
と外で体を使って遊
ばせたい。

どこの家にも跡継ぎがない。
地区の活動を今まで通り続け
ていけるか心配…。

伝統芸能や手仕事の技が、途
絶えてしまうことが心配…。

あなたの
お力貸して
ください！

このかわら版は、皆さんからお聞きした情報をもとに作っています。賀美石にこんな素晴らしいものがある、がんばっている人がいる、きれいな景色があるなど、情報がございましたら、ぜひお寄せください。

また、かわら版の作成に協力してくださる方も大歓迎です。そのほか、地域をよくしていくためのアイデアやご提案をお持ちの方もどうぞご連絡ください。

連絡先：協働のまちづくり推進課（担当 大河原）
TEL0229-63-3215 FAX0229-63-2037

編集後記

賀美石かわら版第2号が完成しました。取材に快く応じてくださった皆さん、本当にありがとうございました。

今回は、賀美石小学校児童と地区の方々の、交流や文化の伝承の姿を見ることができました。地区の方々との触れ合いが、小学生の柔らかい感性にどう響くのか。ふるさと賀美石に興味を持つ子どもたちが増えるといいなあと感じました。それと同時に、地域活動や地区の文化を、小学生以外にどう引き継いでいくか、不安に感じていらっしゃる方も多いようです。

賀美石の素晴らしい宝。豊かな文化、お年寄りの知恵、子どもたちや若い人たちの熱気。それをどう生かし、どのような地域を目指すのか…。すぐに答えの出るものではないと思いますが、わたしたちも一緒に考えさせていただきたいです。現在、若者の集まりや歴史愛好家から新しい動きが芽生えようとしています。わたしたちはそれを応援しながら、今後皆さんへもご紹介させていただきたいと考えています。今後もよろしくお願いたします。

ヤクバ職員が見て、聞いて、教わった賀美石。

賀美石かわら版 第2号

発行：加美町協働のまちづくり推進課
発行日：平成29年6月1日
連絡先：〒981-4292
加美町字西田三番5番地
TEL：0229-63-3215
FAX：0229-63-2037
E-mail：kyodo-matidukuri@town.kami.miyagi.jp



練習の最後に記念撮影

平成29年2月23日、賀美石小学校で行われている、地区の伝統芸能「鳥屋ヶ崎獅子舞」の伝承活動を見学してきました。

教わっていたのは5年生（当時）17名。地区の指導者高橋さん、千葉さんが笛や踊りを指導していました。5年生は最初、6年生から教わりながら10回ほど練習を重ね、その後地区の方から週1回4～5回ほど教わります。地区の方からの指導は、鳥屋ヶ崎獅子舞保存会会長伊藤さんが、中心になって行っています。わたしたちが見学させていただいたのは、その最後の練習でした。

学校に到着したとたん、横笛の音色がわたしたちを迎えてくれました。横笛は縦笛と違って穴が見えないので、指の感覚が頼りとなります。笛担当の子どもたちは、お昼休みになると自主的に練習を進めていたそうです。

笛のほかのパートは、太鼓・山の神・獅子。太鼓のつくるリズムはすべての動きの基礎となりますし、山の神と獅子の掛け合いは大きな見どころです。すべてのパートが息を合わせてこそ、完成する舞。子どもたちは自分

の役割をよく考えながら、一生懸命練習していました。その成長ぶりに、子どもたちの練習を見てきた高橋さん、千葉さんも「本当に上手になった。」と声をそろえていました。練習の最後には、お二人から「自信を持って。」とエールが送られました。

2か月後の4月15日、鳥屋ヶ崎八幡神社の祭礼で、たくさんの観客を前に、立派に獅子舞を披露する子どもたちの姿がありました。地区の伝統に深く触れ、伝承に取り組んできた子どもたちはどんな大人に成長するのでしょうか。楽しみでなりません。



鳥屋ヶ崎八幡神社祭礼での獅子舞

鳥屋ヶ崎ミニデイ



平成29年1月15日、鳥屋ヶ崎集会所で行われた鳥屋ヶ崎のミニデイに参加させていただき、参加者25名の皆さんに、昔の思い出や地区の名人などについてお聞きしました。

子どもの頃の遊びについてお聞きしたところ、遊び場は、現在の賀美石幼稚園の場所にあった中学校だったとのこと。みんなで集まってかくれんぼ、鬼ごっこ、なわとび、野球、竹ぼっくりなど、さまざまな遊びをしていたそうです。ミニデイの後に地区の方に聞いた話ですが、「貝っこおす」という遊びもあったとのこと。わたしたちは初耳でしたが、二人で貝を指ではじき合い、貝が上に乗った方が勝ちという遊びだそうです。

冬の遊びはそりや雪合戦。当時の鳥屋ヶ崎には、そりに乗れる場所がたくさんあり、車も通らなかったので、男女10人程度が乗れる大きな「馬そり」で、のびのびと楽しむことができたそうです。また、



雪の上で「たまっこぶち」をしていたという方もいました。雪の上に円陣を書き、相手のビー玉をそこから出す遊びだったそうです。

外で思い切り遊んでいた昔に比べて「今は子どもが遊ぶ場所も少なくなった。」との声も聞かれました。地区の子どもの数も少なくなり、「子どもと会う機会もなくなった。」とおっしゃる方もいました。

また、地区の〇〇名人は誰かいないか尋ねると…いらっしゃいました！「漬物名人」が。詳しくお話を伺うと「漬物は各自の味。誰に習ったという訳ではない。昔から漬けるのが好きだった。」と教えてくださいました。漬物のレパートリーはたくさんありますが、地区の方によると、特に奈良漬が美味しいそうです。

わたしたちからの質問に、昔を懐かしみながら優しく答えてくださった鳥屋ヶ崎の皆さん、どうもありがとうございました。

けら



わら細工のおはなし

ずんべ



2月17日は米泉のわらじづくり名人、高橋左右治さんのお宅で、わら細工を見せていただきながら、昔の暮らしについて教えていただきました。

高橋さんの子ども時代はまさに戦時中。着るものも履くものもなく、わらで身の回り品を作る技術は必要でした。高橋さんは小学校6年生の頃からお父さんに教わってわら細工を始め、日常的に作っていたそうです。冬に荷物を背負うときに着る「けら」、長靴のような履物「ずんべ」、冬用のカバーがついたわらじ「つまご」。どれも、普段使われていたわら細工です。牛用のわら杓もあり、かつて農作業用の牛馬とともにあった暮らしが偲ばれました。

賀美石小学校の子どもたちが踊る鳥屋ヶ崎獅子舞の装束にも、高橋さんのわら細工が使われています。獅子舞の「山の神」が頭にかぶる「なだぎり」、すねに当てる「はばき」は高橋さんの作。それらのわら細工は実際どのように使われていたのでしょうか？高橋さんがひとつ教えてくださったのは、茅葺き屋根の葺き替えを専門に行う職人、通称「屋根ふきさん」が、「なだぎり」を被っていたという話。

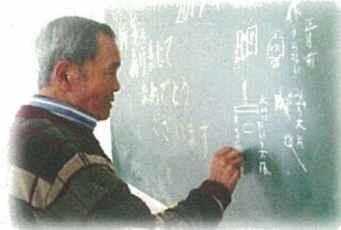
「屋根ふきさん」は、賀美石にもたくさんいたそうですが、茅葺き屋根が次々姿を消す中で、暮らしも大きく変わったことなのでしょう。「なだぎり」もその変化の中で、忘れられつつあるのかもしれない。

数十年前までは、どの家庭でも作られていたわら細工。「今は作れる人はいないだろうなあ…」と高橋さんはおっしゃっていました。貴重なものを見せてくださった高橋さん、ありがとうございました。



なだぎり

はばき



お正月の風習

あれこれ

なりもうす
なりもうす



なっか
なんねーか!

鳥屋ヶ崎ミニデイでは、お正月の風習についても伺うことができました。区長さんのお宅では毎年正月三日に、大根おろし・ホヤ・納豆を混ぜてかけたご飯を神様にお供えしているとのこと。他にも、良いことが続くことを願って大みそかに納豆ごはんを食べるご家庭、みの上に大根の輪切りを3つ重ね、納豆ご飯をのせて仏壇にあげるというご家庭もあり、各家庭ならではの風習が守られていると感じました。

ミニデイ参加者の中でも、特に詳しく風習を教えてくださいましたのが見玉さんです。わたしたちは、2月6日に改めてご自宅に伺い、お話を聞かせていただきました。

見玉さんのお宅では、毎年12月の末頃になると、納豆を仕込む「納豆の日」がありました。納豆はいつでも食べられるわけではなかったのです。見玉さん宅では納豆を作るとき、米ぬかに入れたり、湯たんぽや、焼いた石を古い布（どや）で包んだもので保温して発酵させていたそうです。年も押し迫った28日は餅つきの日。その日は、米を入れた升の上に乗せた丸餅で作凶を占う「作占い」や、丸めた餅をさしたみずきの枝を、玄関等の板戸にさす風習があったそうです。板戸にさしたお餅は、あとで囲炉裏端で焼いて食べるのがお楽しみでした。

年が明けた1月11日は「農はだじ（農業のはじまり）」。この日は、作業場などの土台の上に輪切り大根と乾燥よもぎを乗せて火を焚く、虫よけが行われました。これは、「かんの虫」退治のおまじないでもあったそうです。また、柿の木などの根元を鉋で切り付け、「なっか、なんねーか」「なりもうす、なりもうす」とやり取りする豊作祈願の習わしもあったそうです。

貴重なお話を聞かせていただく中で、「今の子どもたちに、昔の暮らしやたくましく生きていける生活の知恵を教えたい。」という想いも伺いました。見玉さん、どうもありがとうございました。

賀美石小

ニュースポーツ・

交流会

すごい！
すごい！



やったー！

2月14日、賀美石小で行われた4年生児童と地区の高齢者とのニュースポーツ・交流会を見学させていただきました。

前半は、お年寄りたちが慣れ親しんでいるニュースポーツでの交流。子どもたちは、同じチームのおじいさん、おばあさんにコツを教わりながら「スカットボール」と「ペタンク」に挑戦しました。子どもたちにとっては初めてのニュースポーツ。「5点取れた！」「うまいかなかった〜。」と言いながら夢中で遊んでいました。得点できた時には、お年寄りやハイタッチをして喜ぶ姿も。

白熱したゲームの後は、子どもたちから、よさこい踊りとリコーダー演奏の披露。おじいさん、おばあさんたちはあたたかい拍手を送っていました。

最後には、子どもたちがお年寄りと一緒に楽しむものとして選んだカルタ取りが行われました。お年寄りにもなじみのあるゲームで、和やかに会話がはずんでいました。

お年寄りの中には、普段子どもたちと接する機会がないという方もいて、一人で家にいるよりずっと楽しいとの声も聞かれました。子どもたちとお年寄りが触れ合える素晴らしい行事ですね。

